

2024 年度 一般選抜前期日程 〔経済学部〕 小論文（長文理解）
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

近年、社会保障関連費の拡充などに伴い、その財源をどのように調達すべきかを巡って様々な議論が行われてきた。そうした財源論において、消費税増税については特に賛否両論ある。消費税は逆進性があり、格差を拡大する可能性があるという批判的見解に対して、井手英策著『幸福の増税論』（岩波書店、2018年）では、異なる観点から消費税や財源論についての議論が展開されている。われわれの直面する財源問題の概要やそれに対する筆者の見解を本文から読み取る力と、筆者の見解に対する自身の考えを示すための一定程度の知識や論理性を確認することが主な出題意図である。

設問1では、本文中に記されている消費税（あるいはその増税）に関する批判的見解や問題点を読み取ることができるか否かが試されている。基本的には読解問題であり、本文中にある「逆進性」というキーワードに触れ、説明することができるかが主なポイントの一つである。

設問2では、設問1において示された消費税に向けられる批判的見解に対して、筆者はどのように応じているかを整理した上で、筆者の見解について賛成あるいは反対の立場のいずれかを選び、その理由に触れつつ、消費税増税に関する自身の見解を示すことが求められている。筆者の見解を読み取り、文章化した上で、自身の見解を示す、という受験者の読解力のみならず論述力を試す複合型の問題である。

【解答の傾向】

<設問1>

- ・主要なポイントの一つは、本文中の「低所得層の税負担が大きくなる、いわゆる逆進性が問題」とある部分である。
- ・この設問では、キーワードの「逆進性」と、その説明である「低所得層の税負担が大きくなる」の両方に言及することが求められている。その読み取りについては概ね良好であったが、受験者の半数近くは、その片方だけしか書いていなかった。
- ・「逆進性」に関連する「格差」などの問題に触れる受験者は半数以下にとどまった。
- ・問題点を示せという問いに対し、問題点を示さない解答が多く見られた。類似した解答として、受験者自身何が問題点かがわかっているにもかかわらず、その点をはっきり示さない解答が散見された。

<設問2>

- ・消費税に向けられる批判的見解に対する筆者のスタンス
 - (1) 逆進性の問題があっても消費税増税という選択肢を捨てるべきではないこと
 - (2) 所得格差は他の税とのバランスや税の使いみちを吟味すれば解消可能であること
- 以上、2点をきちんと指摘した受験者が思いのほか多く、この点に関しては大変感心した。

- ・「筆者の見解」を吟味するには、「筆者の見解」を正確に把握することが前提だが、その点で不十分な答案も目立った。それが十分にできているかどうかは1つの分岐点である。その上で、「自身の見解」について説得的に論述できていることが望ましい。
- ・世相を反映してなのか、日本経済の先行きを悲観する答案が多くあるように感じた。
- ・筆者の見解について賛否の割合は半々という印象であった。
- ・「賛成するものの懸念点もある」、「筆者の見解の妥当性も認めた上で反対する」というようにバランスをとろうとする意図が伝わる解答も散見された。
- ・賛成・反対の理由は様々であったが、例としては以下のようなものが挙げられる。

[賛成理由]

- * 今後、社会保障関連の費用が拡大していくことは明らかであり、その財源として、税金が景気に左右されにくい消費税を選択肢から排除することは望ましくない。
- * 社会保険料負担の軽減に寄与する可能性がある。

[反対理由]

- * 消費税増税は消費を抑制し、景気全体を低迷させる可能性があるなど、筆者は経済的な面での悪影響を考慮していない。
- * 物価が上昇する中で消費税を増税することは望ましくない。
- * 筆者の想定するような形で政府が格差是正のために税財源を使うとは限らない。

【その他】

- ・簡単な漢字がひらがな表記になっていた。
- ・誤字が散見された。(例：×「徴収」⇒ ○「徴収」)
- ・音だけで把握しており、意味を十分に理解していないと推察される漢字の誤り（「赤血（赤字）」「排止（廃止）」「関接（間接）」「環元（還元）」など）が目立った。
- ・「だ・である」と「です・ます」が混在していた。
- ・「見解する」という表現が散見されたが、そのような日本語はない。
- ・話し言葉と書き言葉の区別ができていない（「むつかしい」「しんどい」「しょうがない」etc.）、言葉遣いが幼い印象を受ける解答も見られた。
- ・主述がきちんと対応していない文章も散見された。